

## 福岡県の高校生・高卒生が、受験競争に勝てない理由

福岡県の高校生の福岡県内の大学の合格率が、どんどん下がっていて、熊本県などの県外の学生の割合が増えています。

これは、何年も前のデータから見ていけばわかると思います。熊本や宮崎や佐賀で、合わせて4年近く、高校生の受験指導をしていて、思い知らされたのが、「福岡県にはないものが、福岡県外にはある」という事実ですね。これらの自治体には、まだ「村社会」が残ってしまっていて、中学や高校を下校してくる生徒たちに、「東京大学は、数学0点で合格できるんだぞ！」などと、近所のオジサン、オバサンたちが、声をかけていました。

福岡県と違い、大学に合格した生徒たちが、お盆や正月などで帰省して、地域社会の大人たちに、「自分がどうやって合格したのか？」という事を、詳しく説明しています。ゆえに、福岡県外の大人たちは、福岡県内の塾や予備校よりも、受験情報が詳しく、福岡県外の高校生たちは、塾や予備校に行かなくても、合格できるわけです。「数学が0点で合格できる」そういう当たり前の事を知っている福岡県外の高校生たちは、数学以外を努力しますが、福岡県内の高校生は何も教えてもらうことなく、数学ばかり勉強して、努力の割りに合格しない事となります。

一昨年、久留米自習室の久留米高校3年生が、河合塾の第二回全統マーク模試で、数学学年一位を取りました。数学IA91点、偏差値69.5、数学IIB89点、偏差値65.5でした。しかし、模試で合計180点でしたが、センター試験本番では、数学IA82点、IIB76点の158点しか取れませんでした。数学の成績を上げるのは難しい事ですが、久留米自習室では、毎日数学の指導をしていますから、当然成績は上がります。しかし、偏差値が70になろうが、学年一位を取ろうが、センター試験をはじめとする入試では、点数にならないのですね。この生徒と一緒に、センター試験を受けた附設生は、東京大学文IIに合格しましたが、数学IIBは75点でした。附設高校の文系クラスでも、数学はトップの成績でしたが、やはり、「努力の割には、点数にならない科目」それが数学です。「数学は、学校の予習・復習・宿題」それぐらいにしなさいと、久留米自習室で指導しているのは、福岡県外では、そういう指導を、地域社会の大人たちから受けているからです。ただし、地域社会によっては、そういう指導ができていない「情報不足のコミュニティ」はございますね。だいたい中学校単位で、情報が共有されています。

久留米自習室では、「教科指導だけやって、成績を上げるだけ」という、よくある塾や予備校の指導と違い、そういう「受験情報の共有」を柱としています。「成績を上げるだけ」ではなく、「合格まで指導する」そういうコミュニティを目指しています。

附設中学生たちが数学の質問に持ってくる「中学代数問題集」は、開成中学・高校が作ったものですから、難しいですね。付属中学生が持ってくる「高校への数学」も大変難しいものです。そういう「学校の宿題」を完全消化している人たちが、合格して行きますよ。